

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズの森川口		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 13日		～ 令和8年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 13日		～ 令和8年 2月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日々の活動を通して、児童が安心して過ごせる雰囲気づくりを大切にしている。集団活動では協力する経験を多く取り入れて、相手を意識した行動や役割分担を学べるよう支援している。また、個々のスキルを向上できるような支援にも努めている。	個々の特性や得意・不得意を把握し、安心して挑戦できる経験を積み重ねている。チームワークを必要とする集団活動を通して、ルールを学び、勝敗に対する気持ちの切り替えについても声掛けを行い気持ちを整えて、できた時にはみんなで一緒に喜びを分かち合えるように支援している。	負けた時の悔しさなどを怒りに変えることなく次のステップへの糧となるように支援している。
2	食育活動を通して、食に対しての偏りを無くし興味を持ち食べる事の大切さや楽しさを、体験を通して学んでいる。	偏食のある児童が多く、個々の児童が家庭においても簡単に作れるもの(おにぎりやサンドイッチ、ホットケーキ等)をセレクトし、職員と共に見守りの中で実践をしている。	卵を割る事が出来るようになってきているので、割った卵を使って作れる卵料理や、自らが調理用ばさみ・ピーラーなどを使い、じゃがいも、人参を使う料理が取り組めるように検討している。
3	課外活動やイベントに積極的に参加している。(防災体験においては、地震、火事、水害に対しての有事対応を学び、身に付けて、高学年においてはAEDの使用方法をイベントを通じて実践している。)	近隣の公園での活動や地域の行事への参加を通して、他児童との関わりや公共の場での過ごし方を学ぶ機会を設けている。遊びや交流を通して、自然なコミュニケーションが生まれるよう支援している。イベントにおいては、生活していく上で必要と考えられる防災関連の体験、職業体験などには積極的に参加している。	

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士が交流できる場の提供が十分ではなく、機会が不足している。	児童の障害特性の違いや、保護者の就労状況、学校が複数に分かれているため、日程の調節が難しい状況がある。また、交流を希望されない保護者もいることから、一律に交流の場を設けることが厳しくなっている。	保護者の負担にならない形で、希望に応じた関わり方を尊重しながら今後機会を設けていく。
2	保護者への非常時の対応(避難訓練や各種マニュアル)の周知が十分ではなく認識されにくい。	緊急時対応や感染症対策などのマニュアルは作成されており、普段から避難訓練も実施しているが日々の支援の中で保護者に伝える機会が限られている為、取り組みが十分に共有されず、評価としては低くなってしまっている。	入所時や面談時等に、非常時対応についてより明確に保護者に伝えていき保護者の安心につながる周知を強化していく。毎月配布している通信や、SNSを活用し、情報発信を行う。
3			